

女夫石遺跡発掘調査速報

No.46

いよいよ明日は2回目の遺跡見学会です。天気がちょっと心配ですが、寒さが和らぐみたいだから良かったです。さて、今回はちょっと大きい炉を持つ竪穴住居を紹介します。炉は時期によって変化することはNo.39で紹介しましたが、同じ時期でもいろいろな個性があります。埋甕のようにね。それでは、大きな炉を持つ大きな竪穴住居にご招待！！



炉の中の土がどんな風に堆積(たいせき)したかの図面を作成中！
大きな6個の石とすき間を埋める小さな石で六角形の形をしているね。図面を作成している人と大きさを比べれば、炉がとっても大きいことが分かるね！



炉の中に堆積(たいせき)した土を掘りあげると炉の底よりも小さい焼けた跡がドーナツ状にできてたよ。きっと土器をそこにおいて火を起こして、食べ物を煮たんだろうね。

炉を囲っている石もよく観察すると磨(す)ったような跡が残っているよ。何を磨(す)ったんだろうね？

あと手前の石が他の石よりも低いのは灰でもかきだしやすい様にするためかな、他のためかな？



沢リ：とっても大きな炉がある竪穴住居跡を発掘しているよ。

マキ：本当だ、とっても大きいね！こんな大きい炉で火を起こしたら、キャンプファイヤーでもできそうだね。

沢リ：家の中でそんなことしたら火事になっちゃうよ！炉の中を見てみると地面が赤くなっているところがドーナツ形にあるよね。ドーナツの内側に縄文土器が置かれたんじゃないかな？その周りは火が強くて、きっと地面が赤くなったんだよ。

マキ：確かにそうだね、でもそうだとしたら、こんなに大きい炉をなぜ作る必要があったのかな？

沢リ：あと、炉の真後ろの壁の近くに長方形の石があるけど、置いて何かに使ったような感じだね！

マキ：それと、炉のちょっと右側の壁に石が組まれているかのように発見されているね。祭壇(さいだん)みたいだね。

沢リ：竪穴住居も柱穴や炉だけじゃなくて色々なものが作られるんだね。女夫石縄文人が住居の中でどんな生活をしていたか考えるとなんだかわくわくするね！（わく）

大き目の竪穴住居だね！炉の奥には壁際(かべぎわ)に石が組まれていて、何か祭壇(さいだん)みたいだね。床面(ゆかめん)も踏み固められていて、ツルツルして硬くなっているよ！

